

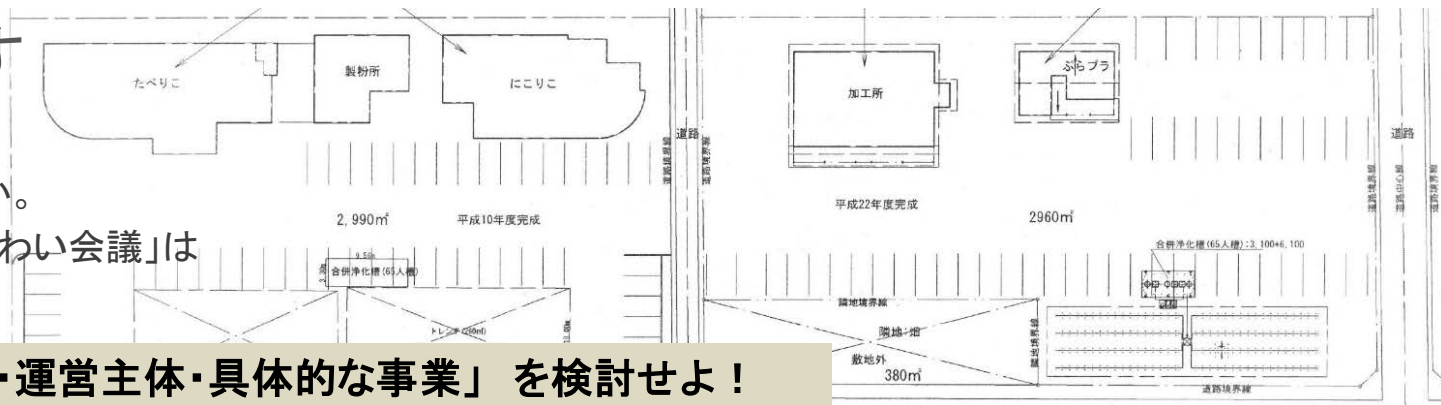
にこりこー帯にぎわい会議は、提言します

農産物直売所「にこりこ」ー帯のリニューアル。

町民に愛され、にぎわうためには、誰が、どのように、何をしたらいいか。

「道の駅」にすることも含めて、ー帯の未来を考える「にこりこー帯にぎわい会議」は

10か月間検討を終え、委員会としての考えをまとめました。



Mission にこりこー帯がにぎわうための、「リニューアル方針・運営主体・具体的な事業」を検討せよ！

リニューアル方針(コンセプト)は？

農家の所得向上のために作られたー帯。一定の利用はあるけれど・・・

ここは、誰のためのどんな場所になったらいいんだろう？

→「**町民が毎日行きたくなる**」、「**笑輪の農のつくる価値を知り、楽しめる場所**」に！

運営主体はどうするの？

公社と町で運営してきましたが、計画的にも運営的にもなかなか上手く行きません。

また、失敗するとお金で損をする責任者がいないことも、経営努力を生みにくい理由です。

→責任者が必要です。誰が担ってもいいですが、町内農家の8割が会員のJAの協力は得た方がよいでしょう。できれば、各施設の連携・協力ができる駅長が必要です。

コンセプトを実現するのは、どんな事業？

○農産物直売所 にこりこ

お客様が欲しいものがあることが第一！直売所に期待するのは「新鮮・安価・品数豊富」。

商品知識豊富な店員や生産者と話せることは、スーパーにはない魅力になります。

町の農産物の旬・美味しさ・使い方を知り、欲しいものを作ってくれるお店になります！

○加工所

何があるのか、何ができるのか、分からない！

でも実は様々な食品加工設備と製造許可のあるすごい場所なんです。作りすぎた野菜を

加工したり、果物をジャムにしたり。皆さんの身近な加工施設として、使ってもらいたい。

にこりこの野菜を無駄なく使い、加工品として学校給食や福祉施設などへ営業しましょう！

○農家レストラン たべりこ

町の農産物の美味しさを伝える場所であってほしい！

食べ放題はロスが多く、メニュー数の確保のために地元以外の材料を使いがち。

一品メニューにして、もっと地元の材料をつかったメニューにしましょう。

お昼時だけの営業時間は見直しも必要です。

道の駅は、どう考えるの？

コンセプトを実現する手段として、道の駅になることはどうなのか？

ー帯が道の駅に認定されるには、要件の外用トイレや舗装、看板などに約1億円かかります。その上で、各施設の改築費用が発生します。

広告塔として、ー帯を売り出し町を売り出していくには手っ取り早いツールですが、通常道の駅として期待されるレベルに中身が伴わない場合、町民からも観光客からも利用されない状況になります。

(人の来ない道の駅や、潰れる道の駅は全国に多々あります)

つまり、道の駅の認定によらず、まずは自力で魅力をつけ、

町民の利用が進まない限り、ー帯に未来はありません。

このリスクをどう判断し、どの時点で道の駅にするかがポイントです。

○周辺の果樹団地

一年を通して野菜や果樹の収穫体験ができる、果樹団地が整いつつ

あります！収穫～加工など、体験カレンダーで町を楽しみましょう！

○追加して整備するモノ・コト

コンセプトを実現するために、どんなものが追加で欲しい？

その前に・・・中身の改善が第一！施設をよくしても中身がダメなら意味がありません！

→「にこりこー帯」じゃ分からない。ー帯に名前を付けて売り出そう！

→バラバラに開発しちゃダメ。トータルデザインを決めて開発しよう！

→看板やアーケード、日陰など基本的なことから取り組もう！

提言について、
詳しくは、本編をご覧ください！